

JWUシーズ		※=入力必須項目	
研究者名※	山下将司	学位※	博士(文学)
所属※	文学部 史学科	職名※	教授
連絡先	yamashitas@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0142078/		
研究分野※	人文学、史学、アジア史、中国古代・中世史、東アジア史、中央ユーラシア史		
研究キーワード※	唐帝国、ソグド人、テュルク人、突厥、石刻史料		
共同研究・競争的資金等の研究課題	前近代ユーラシア世界における広域諸帝国の総合的研究:移動する軍事力と政治社会(科学研究費・基盤A・分担研究者、2019年～) ユーラシア諸帝国の形成と構造的展開——王権と軍事集団の比較史的研究——(科学研究費・基盤B・分担研究者、2015～19年)		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK BSプレミアム「盗まれた長安 よみがえる古代メトロポリス」NHK・テムジン制作, 2017年9月2日放映, 取材協力(資料提供、番組内インタビュー) ・第6回夢ナビライブ 講師(2015年7月11日, (株)フロムページ主催 文部科学省後援) ・文京アカデミア講座 講師(2012年4月21日・28日, 文京区主催) ・放送大学 講師(2010～13年) 		
受賞歴			

研究領域	中国古代・中世史、東アジア史、中央ユーラシア史	(SDGs)
研究テーマ※	唐帝国の形成と展開	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>私が一貫して取り組んでいる研究課題は、7世紀から8世紀の東アジアになぜ唐のような「世界帝国」的性格を帯びた国家が現れたのか、その要因の解明である。近年、特に注目しているのが、中国本土内に移住してきた内陸アジア(中央ユーラシア)系住民、すなわちソグド人とトルコ系遊牧民(テュルク人)の活動である。</p> <p>ソグド人は、中央アジアのイラン系オアシス住民で、3世紀から10世紀にかけてユーラシアの内陸交易を独占したことで知られる。私は中国で相次いで発見されたソグド人漢文墓誌を分析することで、彼らの中国における活動の実態解明に取り組んできた。その結果、ソグド人は唐が建国されるよりも以前、中国がまだ分裂していた6世紀の南北朝時代にすでに北中国各地に集団で移住しており、しかも軍人として活動し、中国の政治的動乱に少なからぬ影響を与えていたことを指摘してきた。</p> <p>例えば、隋の末期に唐の建国者李淵が挙兵した際、そこに山西のソグド人軍団が加わっており、この軍団の起源が北朝時代にまで遡ることを明らかにした。つまり、ソグド人は唐の建国に直接関与していたのである。このように、従来の「ソグド人すなわち商人」というイメージとは異なる軍人としてのソグド人の姿を浮かび上がらせてきたが、最近の研究成果では、彼らが決して商業を放棄していたわけではないことも指摘した。中国に移住したソグド人は軍人として活動する一方で、経済活動も平行して行っており、その相乗効果によって商業ネットワークを押し広げていたのである。</p> <p>一方、唐は7世紀前半に突厥(とっけつ)を滅ぼしてその遺民集団を受け入れたのをはじめ、しばしばトルコ系遊牧民の集団を帝国領内の西北辺境に移住させている。私は、唐が7世紀にユーラシアの東方に覇権を確立できた要因として、多くのトルコ系遊牧民の集団を部族組織を維持させたまま間接支配下に置き、これを騎馬軍団に組織して対外遠征の際に常に従軍させていたことを指摘した。</p> <p>また、唐朝が8世紀半ばに起こった安史の乱(安祿山の叛乱)によって弱体化し、国内に軍閥が割拠する状況下でも政権を保持できたのは、唐の領内に移住したトルコ系遊牧民集団を軍事力に転換し、それに依拠して国内反抗勢力の抑制に成功した点にあったことも明らかにした。</p> <p>このように、唐の形成と展開は、広く中央ユーラシアとの連動の中で起こっていたのである。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・山下将司「漢文墓誌より描く六世紀華北分裂期のソグド人」『日本女子大学紀要 文学部』69, 41-54頁, 2020年 	

	・山下将司「唐のテュルク人蕃兵」『歴史学研究』881、1-11頁、2011年
共同研究・外部機関との連携への期待	・前近代ユーラシア諸帝国との比較史研究 ・前近代ユーラシアにおける政権と軍事の関係の共同研究